

JICA”インドネシア国家警察改革支援プログラム”調整員・安齋俊哉6段からのレポート

6月2日、仙石常雄先生の道場開き式に参加してきました。

私財を投げ打っての夢実現(道場開き式での発表では5,000万円以上)ですが、半端なものではありません。完成前にも足を運びましたので概要は知っておりましたが、いざ、完成してみると、本当に凄いです。

ジャカルタ日本人会柔道部からは、黒田先生、吉村さん、本庄さん、聖成一家、福井一家、尾崎一家、清島一家、山口一家、安齋一家が大挙して馳せ参りました。

式典は、歓迎のバリダンス、来賓挨拶、仙石先生の挨拶、記念品贈呈、バリ名誉市民の認定証授与、山下康裕先生のNPOからの寄付金授与、テープカット、道場披露、日本から馳せ参じたよさこいソーラン、居合の演武、講道館昇段者への昇段証書授与、記念試合(バリ対日本)、食事、バリダンス&バンド演奏、etc.の順で行われ、夕方5時から深夜まで続きました。

道場入り口に鎮座している「仙石道場」の看板はジャカルタ日本人会柔道部の尾崎氏の手作りですが、テープカットでこれが現れたときには会場から大きな歓声がありました。

子供同士の記念試合は、関根忍先生(全日本&オリンピック優勝者)の主審で行われました。13人制でしたが、1-12で日本の子供達が負けてしまいました。勝ったのは福井真美選手(中一)だけでしたが、子供達はそれなりに頑張っていました。記念式典に際し必勝態勢のバリは、技術、体力、体格で勝っていました。会場は大いに盛り上がり良かったと思いました。子供達にとっても「仙石道場最初の試合」に参加したことは一生の思い出になるでしょう。

3月に昇段していた吉村、清島、尾崎、安齋の昇段証書授与では、関根忍先生から証書と帯を頂くことが出来たので大変良い記念になりました。

約30年前のインドネシアでの柔道指導がきっかけで、「いつか、必ずここで道場を開く」という夢を、実現されたわけですが、その規模も内容も半端ではありません。私は完成前にも足を運びましたので概要は知っておりましたが、いざ、完成してみると本当に素晴らしい道場です。ここで、これから沢山の子供達や選手、指導者達が稽古をするのかと思うと感無量になりました。

早速、ジャカルタからバリの仙石道場に子供達を引率して合宿に行こうと計画を練っているところです。

仙石先生の夢は壮大なもので、「道場は出来たけど、これからは本当に夢の実現に向けて頑張らなきゃならないんだよ」と仰っておられました。これからも御健康に留意され、日イ柔道の発展、健やかな青少年の育成に邁進されることを祈念すると共に、バリとジャカルタの違いはありますが、同じインドネシアで指導する後輩としてお手伝いをしていかなければならないと気を引き締めたところです。

皆様も、バリにお越しの際は、是非足をお運びになってください。非常に良いところです。

(安齋俊哉)